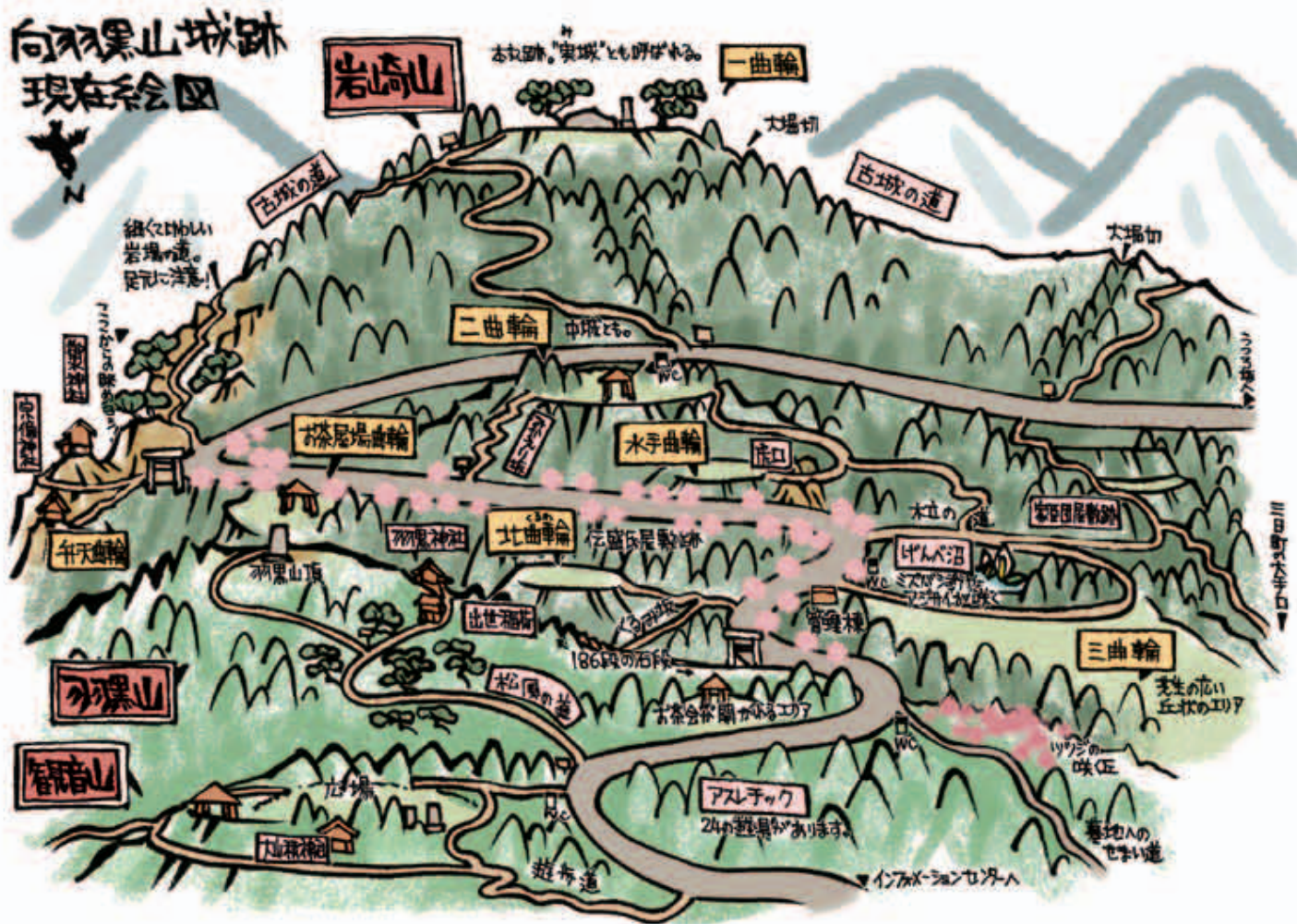




■葦名の時代

会津の葦名氏は相模(神奈川県)の三浦一族。1192年に鎌倉幕府を樹立した源頼朝の御家人として、多大な軍功により、会津の穀倉地帯である北部を中心に領地を得たといわれています。

葦名氏の全盛期を築いたのが16代盛氏で、最大の勢力を誇ったのは戦国の世もたけなわのころ。領内の豪族をまとめあげ一枚岩とした盛氏は、度重なる戦いで新潟県東部から会津地方全域、中通り地方のほとんどを従え、百万石の会津太守と謳われ、幕林家・中興の祖と呼ばれるようになったり名を馳した。8年の歳月をかけて向羽黒山城を築いたのも盛氏です。

しかし、盛氏の嫡男で17代の盛興は、世継を残さず天正2年(1574)29歳の若さで病没。そのため盛氏は、残された盛興婦人(伊達氏女)に、須賀川から人質の二階堂盛隆を婿にして葦名家を継がせましたが家臣に斬殺され、その子亀若(王)も幼年のまま病死してしまいます。全盛期を築いた盛氏でしたが、天正8年に60歳で没して以降、その後の養子問題でも家中が乱れ、運命の天正17年(1589)、磐梯山麓の摺上原の合戦で伊達政宗に大敗し、会津支配400年の歴史に終止符を打たれてしまいます。

■国の史跡指定となる

平成13年8月7日、国の史跡指定となった向羽黒山城の遺構の巨大さは東北随一。上杉謙信の居城であった春日山城をも凌ぐといわれており、全国でも有数の山城として熱い視線が注がれています。盛氏以降の時代にならぬと出現しない遺構も多く存在することから、歴代の会津領主(伊達・蒲生・上杉氏)が改修を繰り返していたことがわかっています。

■戦略上の要の城

山城の史跡部分は標高408mの山頂を中心にして、東西約1.4km、南北1.5kmという、鶴ヶ城の約2倍の面積を有しています。盛氏

の隠居城として築城され、天正2年(1574)の嫡男盛興の死によって、盛氏が黒川(若松)に戻ると廃城になったという説もありますが、天正2年以降も葦名氏の重要な城として存続しているのが確認されています。

盛氏は黒川城から直線で6km離れたこの向羽黒山城を、戦略上の「詰の城」としてとらえていたといわれます。黒川(若松)城の弱点である側面の強化を向羽黒山城に求め、南の下野街道方面や西の越後方面から攻めて来るであろう敵に対し、黒川城と強力な連携を計りつつ撃退するために、最大限の備えと機動力を向羽黒山城に施していたとも考えられています。

この山城を取り巻く宿町(城下町)には、三日町、六日町、十日町といった数字のつく町名が地名として残っており、三斎市や六斎市が定期的に開かれていました。盛氏は、経済(国力)を高める一端として、尊名氏代々の「商人司」粟田氏を登用して市を開かせ、城下の流通の強化を計っていたことがわかっています。日本三大山城にも数えられる巨大な規模を誇り、黒川城下とは、別な経済圏を築いていることなどから、現代の想像を超える構想があった可能性を秘めています。

■「天地人」の直江山城守兼続も目をつけた向羽黒山城

時代は下り、上杉景勝の時代、豊臣秀吉の死後徳川家康が政権をつかち、秀吉の重臣であった景勝にも圧力をかけられました。有名な「直江津」は会津で書かれたものです。徳川家康の会津攻撃の報を聞くと、景勝は神指城の築城をやめ、白河方面の防壁を築き始めました。しかし、それ以前に向羽黒山城にすでに手を加えていたことはあまり知られていません。景勝は、会津に入ると真っ先に、向羽黒山城を2年間かけて大改修しているといわれています。

景勝・兼統は、向羽黒山城を対家康戦の最後の砦として考えていた節もあり、会津で東北の関が原が行われていれば、最も重要な砦となりうる山城であったのです。



国重文 葦名盛氏坐像
【瑞雲山 宗英寺藏】

向羽黒山城にまつわる会津の歴史

1189	文治5年	佐原義連、会津を賜り入国、小田山城を築城。
1274	文永11年	会津美里町、中田の弘安寺十一面観音の造像。
1276	建治2年	会津美里町、高田の法幢寺阿弥陀像の造像。
1354	文和3年	小田山城に一廓を造り、内外を小田垣と号す。 諸廓を小田山城と称し、廓の外は黒川城という。
1384	至徳元年	草名直盛、城を築き鶴城と称す。
1536	天文5年	白鬚の大洪水。 鶴沼川の流れが本郷村岩崎より北に移動。
1561	永祿4年	盛氏が岩崎に城の普請始める。
1564	永祿7年	盛氏、甲斐の武田晴信、相模の北条氏政らと盟約。
1568	永祿11年	勝常寺の覚成が 灌館銘 を著す。 羽羽黒山城が完成 。
1570	元亀元年	盛氏、岩崎と小田山城の間に商家を作り、 宗願町と名付ける。
1574	天正2年	草名盛興が死去。 盛氏、岩崎より黒川へ帰還する。
1578	天正6年	上杉謙信没。景勝と景虎の戦いとなる。
1580	天正8年	60歳で草名盛氏死去。
1584	天正12年	伊達輝宗隠居し、家督を政宗に譲る。 伊達政宗が、松原に進攻。
1586	天正14年	草名亀竜(王)丸3歳が 瘡痂 で亡くなる。
1587	天正15年	佐竹重重の次男、義広が黒川城に入る。
1589	天正17年	摺上原の戦いで草名氏滅亡。政宗、黒川へ入る。
1590	天正18年	政宗が、小田原の秀吉の陣所において謁見。 会津領は取上げられる。 豊田秀吉、会津入り、興徳寺にて奥州仕置。 蒲生氏郷、黒川城入部。
1592	文祿元年	蒲生氏郷、黒川を若松と名付ける。
1593	文祿2年	若松城殿守(天守)が建つ。
1595	文祿4年	氏郷京都で死去、13歳秀行が相続。
1598	慶長3年	秀吉より上杉景勝会津移封を申し渡しし。 景勝、越後経由で石田三成と会津入部。
1600	慶長5年	景勝、兼統に命じ、 神指城築城 を命じる。 神指城本丸の築城を開始する。 家康より兼統あてに上洛するよう書状。 兼統が家康の返書を書く。 家康、諸大名に会津出征を命ずる。 景勝、家康に謝罪。
1601	慶長6年	蒲生秀行会津60万石、景勝は米沢へ移封。 羽羽黒山城が破壊させられる。